

# キャリアコンサルタントの質向上に関する報告書 概要

個人のウェルビーイングと社会の持続可能性を繋ぐ  
真のインフラへ

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会  
「キャリアコンサルタントの質向上プロジェクト」検討委員会

## 委員名簿

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会 会長

特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 会長

株式会社日本マンパワー 代表取締役会長

NPO法人ICDS 理事長

一般社団法人日本産業カウンセラー協会 会長

一般社団法人日本産業カウンセラー協会 副会長

株式会社テクノファ

株式会社東京リーガルマインド 執行役員

株式会社リカレント 教務統括部シニアディレクター

株式会社リカレント 学校長

ヒューマンアカデミー株式会社 社会人教育事業部戦略室室長

ヒューマンアカデミー株式会社 社会人教育事業部戦略室

一般社団法人地域連携プラットフォーム 代表理事

一般社団法人地域連携プラットフォーム シニアリサーチャー

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会 常務理事

岡田昌毅（座長）

藤田真也

田中稔哉

深谷潤一

田中節子

北村孝基

伊良波久美

西脇奈保子

秋谷裕二

堀口恵子

木野真弘

金野仁美

柴田郁夫

及川勝洋

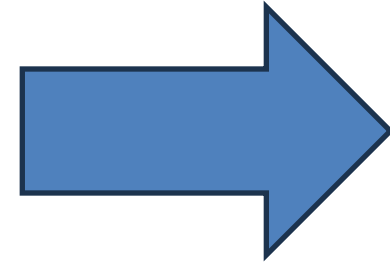
原正紀（進行）

（順不同、敬称略）

# 報告書の提言と全体像

## 背景と課題

- ・ 資格取得者の急増と、それに伴う質のばらつき
- ・ 労働市場の三位一体改革（ジョブ型、リスキリング）など、公的施策による要請
- ・ 多様性進展や、AIテクノロジー急速普及などの環境激変



## 本報告書の提言

- ・ キャリアコンサルタント(CC)の専門性と社会的価値の再定義
- ・ 「質の確保」と「活躍の場の拡大」の相乗的な推進
- ・ 個人の人生に寄り添いながら、社会を動かす真の社会インフラとしての定着を図る道筋の提示



# CCを取り巻く環境の激変と新たな要請

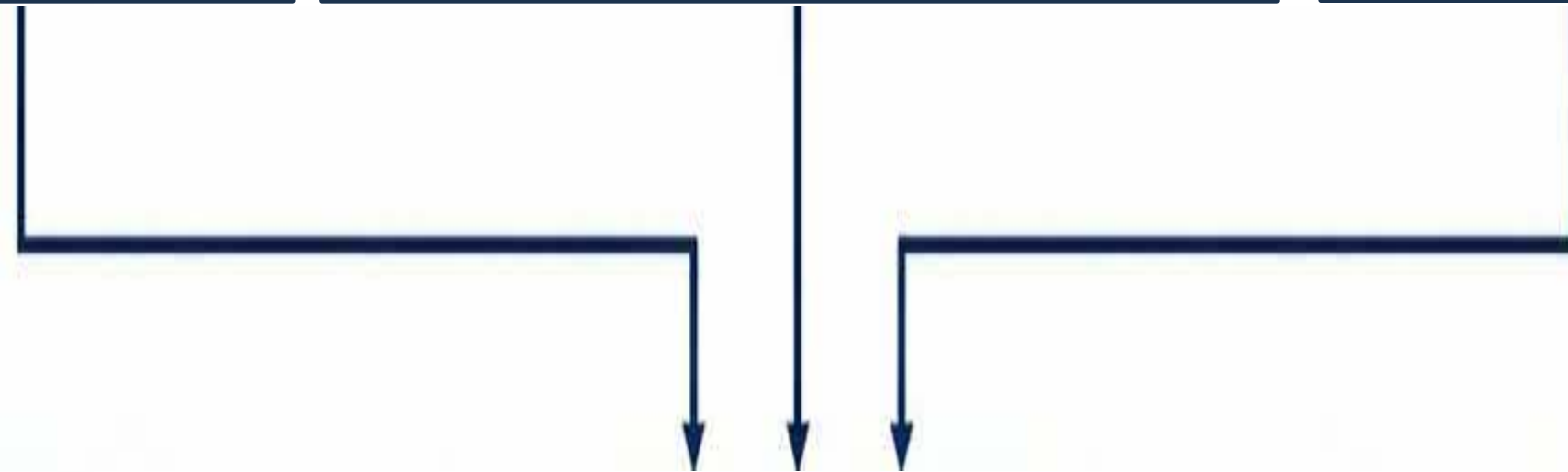
## 労働市場の改革

ジョブ型雇用の進展、  
リスキリングの要請



## ライフキャリアの多様化

人生100年時代、  
ワークとライフの境界線  
の曖昧化



## テクノロジーの進化

生成AIの急速な普及  
と相談の代替可能性

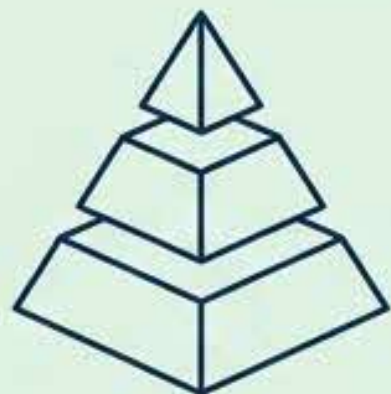


**課題：実践的な活躍の場の不足と、資格者の質のばらつきの是正。**

**要請：従来の不適應解消型から、未来の可能性を開拓する開発的支援への転換**

# 本報告書の構成（4つの柱）

## 第1章 質の再定義



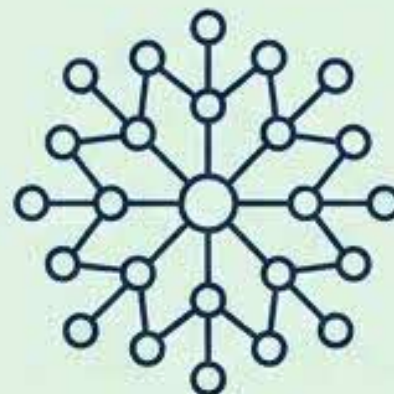
技法以前の人間性・  
哲学を土台とする  
三階層構造

## 第2章 行動指針



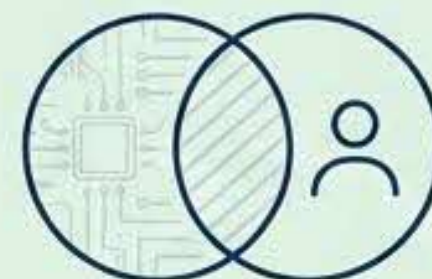
社会変化に対応した  
実践的ガイドラインと  
開発的支援へのシフト

## 第3章 活躍の場の拡大



組織開発・異分野連携  
による社会インフラ化  
と相乗効果

## 第4章 AI時代のあり方



テクノロジーとの共生  
と、人間ならではの  
専門的価値の明確化

# [第1章] 質の再定義 — 支援の土台をなす三階層構造

## 【第三階層：頂点】

### 具体的な行動・スキル

- 対話技術、情報提供、組織への働きかけ、テクノロジー活用
- 継続的な学習・研鑽

## 【第二階層：中間】

### 人間理解と概念化（自己理解と他者理解）

- 自身のバイアスの自覚と深い「自己理解」
- 容易にわかったつもりにならない「他者理解への謙虚さ」

## 【第一階層：土台】

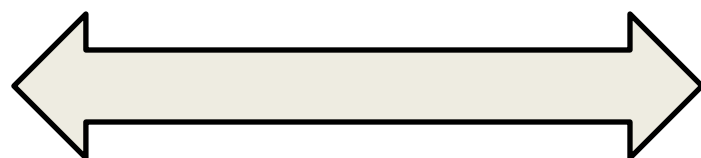
### 人間性・哲学・あり方

- クライアントは成長するという「肯定的な人間観」
- 相談者の利益を最優先する「クライアント中心」のスタンスの徹底

# 柱1：支援者としての根本的スタンス

## クライアント中心の徹底

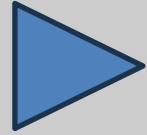
- ・ 目的の純化：CCの自己満足や外的な評価のためではなく、クライアントの成長と自己実現を第一に考える。
- ・ 自律の支援：依存を排除し、未来に希望を持ち自律的に意思決定できるよう伴走する。
- ・ 結果への責任：「役に立つ支援」を一貫して保持し、具体的な行動や成長というアウトカムを生み出す。



## 深い自己理解と謙虚さ

- ・ バイアスの自覚：自身の価値観や偏見（バイアス）を客観視し、支援にマイナス影響を与えない意識的なセルフコントロール。
- ・ 容易に分かったとしない姿勢：クライアントの複雑な状況を安易な枠組みに当てはめない「他者理解への謙虚さ」。
- ・ 継続的研鑽：スーパービジョン（SV）の定期的な受講など、支援者自身の自己概念を常にアップデートする。

## [第2章] 行動指針 — 開発的支援へのパラダイムシフト

項目	これまでの支援	これからの支援（開発的支援）
目的	不応の解消・悩み受容 	未来の可能性開拓・内発的動機づけ
視点	ワーク（仕事）中心 	ライフ（人生）全体を含む多様な価値観の受容
対象	個人のみへのアプローチ 	個人から組織・環境への働きかけ（システム論的視点）
役割	一対一の相談役 	公共性の自覚、社会のセーフティネット、組織開発パートナー

## 柱2：倫理的誠実さと公共性の自覚

### 個人の利益最大化

クライアントの自律尊重、キャリアの切断（病気・失業等）に直面した当事者への徹底した寄り添い。

### 社会の利益・健全化

労働市場の最適化、誰も取り残されない社会の構築。

真の  
プロフェSSIONナル  
としての行動

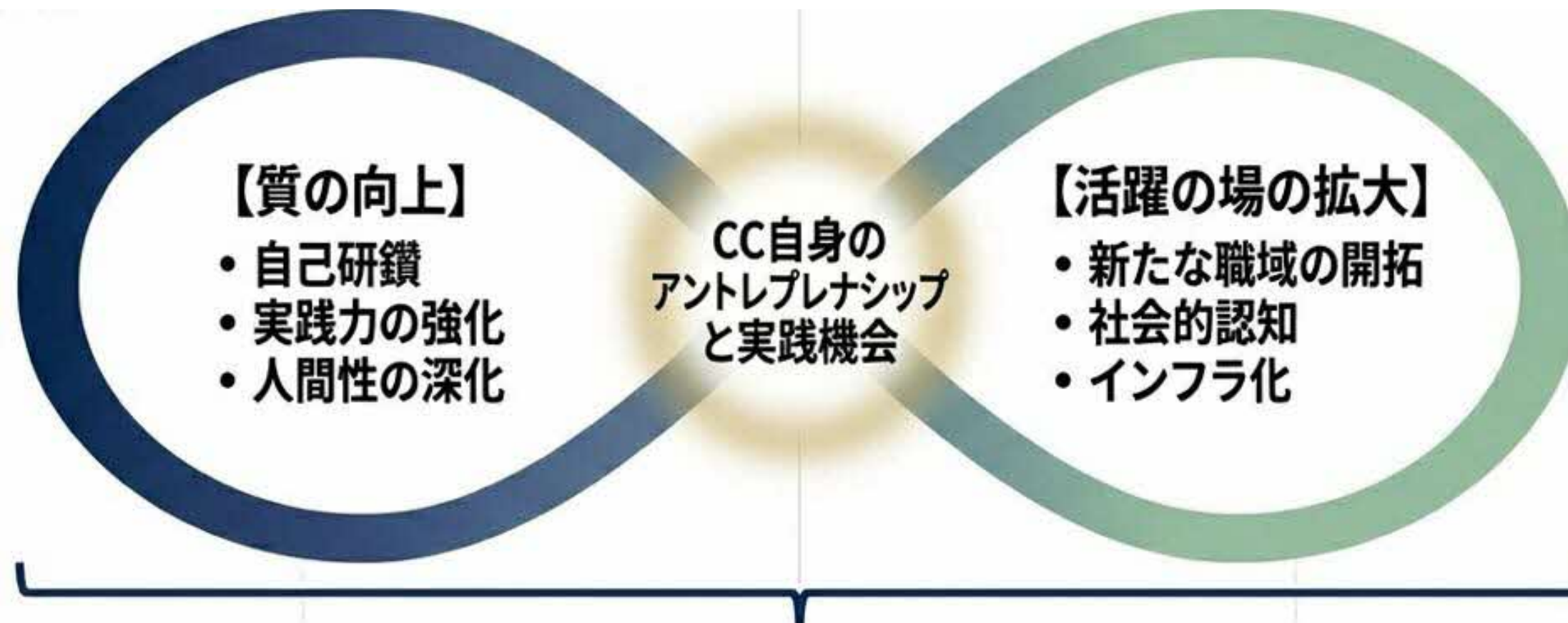
#### 社会的セーフティネット

福祉・行政の対応に至る前の「未然防止機能」としての日常的な関わり。

#### 倫理的貫徹

多重関係の回避、守秘義務の徹底。不透明な報酬体系や相談者の利益を損なうビジネスモデルに対する毅然とした態度。

# [第3章] 活躍の場の拡大 — 「質」と「活躍」の相乗効果ループ



## 推進する3つの戦略

1. 公的起点によるインフラ化：政策提言、効果のエビデンス蓄積
2. 既存領域の深化：企業・教育・公共領域における組織開発的介入
3. 新市場の主体的創造：自律的な専門職としての独自サービス開発

# [活躍の場] 異分野連携によるハブ機能の発揮例

## 企業・組織

経営層・人事へのフィードバック、管理職・マネージャー向けキャリア教育の実施。

## メンタルヘルス・医療

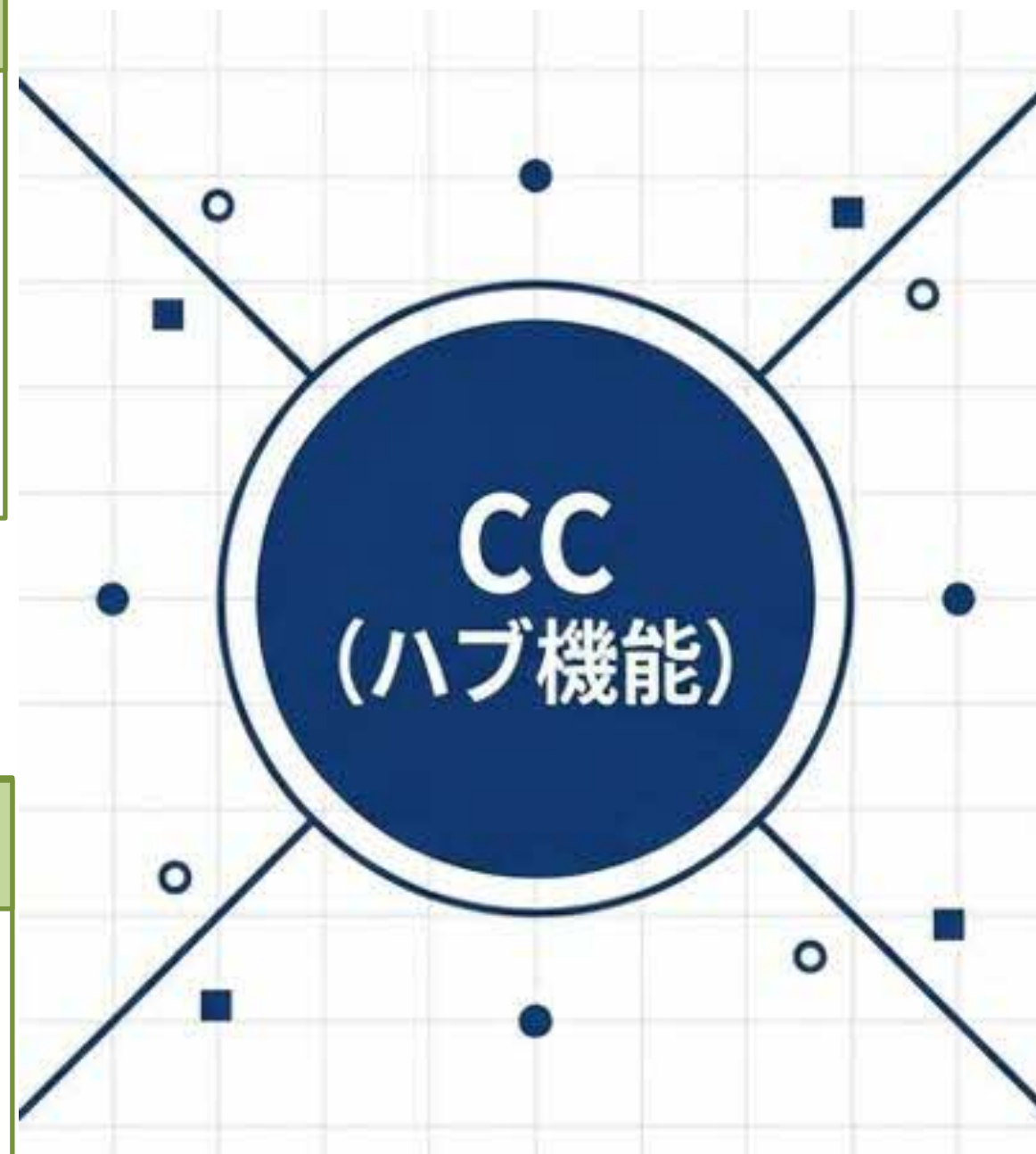
産業医や臨床心理士と連携したリワーク支援（回復期におけるキャリア再設計）。

## 教育・スポーツ

学校教師や競技コーチなど、人を指導する立場の人々へのキャリア視点の提供。

## 地域創生

地方移住者における生活基盤の確立伴走や、移住失敗時のリカバリー支援（セーフティネット）。



## [第4章] AI時代における人間ならではの専門的価値



### AIの強み

- ・ 膨大な情報収集と自己分析ツールの提供
- ・ 前例に基づく精度の高い一般的の生成



### 人間の強み / CCの価値

- ・ 予定調和ではない対話を通じた「意味の共創」
- ・ 相談者の主訴の妥当性検討と、「違和感」の言語化
- ・ 複雑な感情の受容と、信頼関係（ラポール）の構築

次世代のハイブリッドな支援姿勢：  
AIを効率的な道具として位置づけ、合理性が極まる時代においてこそ、無駄や迷いを包含した人間中心の支援を貫く。

# [CCの価値] AI活用の倫理的原則とガイドライン

## 原則1：インフォームド・コンセントの徹底

クライアントに対し、どのような目的でAIを活用するか事前に明確な同意を取得する

## 原則2：機密情報・個人情報保護

入力データが機械学習に利用されるオープンなクラウドサービスの利用を回避し、クラウドで安全な環境を担保する。

## 原則3：スチュワードシップの発揮

AIの回答を盲信せず、CCが専門家としての責任を持ち、相談者と共に吟味・調整する（責任の所在は人間）。

# 総括 — 真の社会インフラへの進化

## 動的なプロセス としての「質」

質とは固定されたゴールではなく、社会の激変と絶え間ない自己研鑽を通じて磨き続けられるものである。

## AI時代の 人間らしさの擁護

合理化が進む時代において、個人の尊厳を守り、共に希望を創り出す人間の営みの価値はかつてなく高まる。

## 能動的なインフラ化

受け身の相談役から脱却し、アクセスの容易なネットワークを自ら構築する。個人のウェルビーイングと組織の発展を繋ぐ架け橋となる。

# 全体総括：真の社会インフラを目指して

## 変革の担い手としてのキャリアコンサルタント

- ・ AIへ手軽に相談できる時代において、「手間や費用をかけても、この人間（CC）に任せたい」と思わせる価値の提供。
- ・ 既存の枠組みで待つのではなく、自ら動き、個人と社会を繋ぐネットワークを構築する。
- ・ 合理性が席巻する時代においてこそ、人間の「迷い」や「希望」に伴走する営みは、かつてないほど重要になる



社会のあらゆる場面で**信頼される専門職**となり、  
**個人の幸福と組織の持続的発展を繋ぐ架け橋**となるために。